

核兵器禁止条約に批准する政府を



▲平和行進は6/30~7/7に大阪府内を通過
▼ピースインおおさか(8/2)



被爆者自身が深い決意で呼びかけた「ヒバクシャ国際署名」の目標達成の期限は、広島・長崎の被爆から75年となる来年です。最大規模の核軍縮交渉となる核不拡散条約(NPT)再検討会議も来年開かれます。重要な節目となる年を控え、大阪でも様々な取り組みがすすめられています。

核兵器禁止条約への署名を拒否し、核兵器廃絶に背を向ける安倍政権に対し、唯一の戦争被爆国である日本で「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名(ヒバクシャ国際署名)」を職場から広げ、この夏、日本政府に核兵器禁止条約の批准を迫る運動をすすめていきましょう。

戦後74年 今、平和を考えた



7月27日~28日の2日間、ユトリート東大阪で「東大阪平和のためのせんそうてん」を東大阪労連などが参加する実行委員会が開催。朗読劇、講演会などが行われ、多くの市民が参加し、平和について「見て、感じて、考える」取り組みとなりました。

労働組合の原点と実感!



8月3日、国労大阪会館で、大阪労連共済は2019年度共済学校を開催。講義を聞いた参加者は、共済が労働組合の原点の「助け合い」ということを実感し、正確な実務が組合員の信頼を高め、組織強化につながる大切なものと改めて確認しました。

ろーれんフラッシュユ

大阪市地区協では9月の総会に向けて、一泊での拡大幹事会を7月27、28日にひょうご共済会館で開催。今年2日目に全労連の黒澤幸一事務局次長を招いて『組織拡大・強化』についての学習を行いました。黒澤さんは「目標を掲げるだけでなく、大切なのは未来

仲間を市地区協みんなで



▲新組合(員)歓迎&活動交流のつどい



▲講演する全労連黒澤事務局次長

の話し、参加者は元気をもらいました。全労連運動の素晴らしさと産別と地域が一体となったの組織拡大の意味を再確認し、共に知恵を絞り、意見を出し合い仲間を増やそうと意思統一しました。

また、市地区協では31日にも「新組合(員)歓迎&活動交流のつどい」を開催し、新しく入った

大阪市地区協

「仲間を増やし心の底から笑い合おう」



▲戦没画学生慰霊美術館「無言館」の前で

大阪労連青年部は、長野県白馬村で、6月22日から一泊二日の日程で「青年部一泊平和ツアー」を行いました! 宿に到着し、5人2班に分かれグループワークを行いました。テーマは①「職業あるある」、②「組合に入って良かったこと、嫌だったこと」、③「組合でやりたいこと」の三つに対して、それぞれ意見を出し合いました。それぞれ大きな模造紙に意見を書いた付箋を貼って交流し、班ごとに発表しました。さまざまな意見や要求が出され、今後の大阪労連青年部の活動として具体化していくと確認しました。

2日目はフィールドワークとして、「ちひろ美術館」と「無言館」を見学しました。各地域労連からの活動を交流しました。「苦しい事、困難な事は笑い飛ばし、仲間を増やして、心の底から笑い合おう」と確認し、笑顔がいっぱいになった。



▲さまざまな要求が出されたグループワーク

国労大阪会館を

研修・学習会などにご利用ください

JR・天満駅 地下鉄・扇町駅 下車すぐ

◆身障者用昇降機設置

お申し込みは ☎06(6354)0661

〒530-0034 大阪市北区錦町2-2

障害のある子どもたちに当たり前前の教育を!

目標5万筆! 「請願署名」にご協力を!

大阪府立障害児学校教職員組合

障害の程度にかかわらず、一人ひとりの子どもに合った豊かな教育を受ける権利を保障するために、支援学校が存在しています。しかし、大阪府教育委員会は、2026年度までに府立支援学校に在籍する知的障害児童生徒が、今後1400人増える見込みを示しながら「特別教室の普通教室への転用」や「玄関ホールの転用」などで、新校整備は600人程度にとどめるとしています。そのために、府教委は、今年1月に、府内3地域の通学区域制変更を発表しました。これによって次年度から地元の学校に通えず、1時間を超える長時間通学を強いられるケースも生じます。新しく就任した吉村知事は、6月13日に大阪市内の支援学校を視察し、2校程度新設したいと記者発表しましたが、これまでの府教委の基本方針以上のものではなく、知事が自身の判断で「決断」したかのような姿勢に、関係団体では怒り心頭です!

大障教は、「過大・過密」の抜本的解消を求めて、昨年に引き続き、今年度も「支援学校増設を求める請願署名」にとりかかっています。新たに作成したリーフを活用し、「基本方針」の問題点や人権侵害ともいえる大阪の障害児学校のリアルな実態を広く知らせ、保護者・教職員・障害者団体と共同し、昨年を上回る目標5万筆の集約を目指していきます。

大阪労連の仲間のみならず、ご家族やご友人などをはじめ、署名への幅広いご協力をお願いします。